

# 一般の虚アーベル体の Demjanenko matrix について

青山学院高等部 津村 博文 (Hirofumi Tsumura)

## § 0. Introduction

自然数  $n$  に対し,  $A_n = \{a \in \mathbf{Z} \mid 1 \leq a < n/2, (a, n) = 1\}$  とおく. また整数  $x$  に対し,  $R(x) = R_n(x)$  を  $x$  modulo  $n$  の剰余類の代表元で  $0 \leq R(x) < n$  となるものとし,  $x'$  を  $xx' \equiv 1 \pmod{n}$  で  $1 \leq x' < n$  となる整数とする. このとき Maillet determinant  $D(n)$  が次のように定義される.

$$D(n) = \det \left( R(ab') \right)_{a,b \in A_n}. \tag{0.1}$$

Carlitz-Olson は 任意の奇素数  $p$  に対し, 次の関係式を証明した ([C-O]).

$$D(p) = \pm p^{(p-3)/2} h^-(\mathbf{Q}(\zeta_p)). \tag{0.2}$$

ここで  $h^-(\mathbf{Q}(\zeta_p))$  は  $\mathbf{Q}(\zeta_p)$  の相対類数である. この (0.2) は一般の円分体にまで一般化されたが, 最近になって Girstmair によって虚アーベル体の Maillet determinant が定義され (0.2) が一般化された ([G]).

Maillet determinant に類するものとして Demjanenko Matrix がある. この行列は以前から Folz や Zimmer によって, ある楕円曲線の torsion point の order の bound を与えるなど ([F-Z]) 有効に使われていたものであるが, Hazama によって  $\mathbf{Q}(\zeta_p)$  に付随する Demjanenko matrix  $\Delta_p$  の determinant が計算され, (0.2) の類似として次の関係式が証明された ([Ha]).

$$\det \Delta_p = \pm \frac{F}{p} h^-(\mathbf{Q}(\zeta_p)). \tag{0.3}$$

ただし  $F = \prod_{\chi} (2 - \chi(2))$ , ここで  $\chi$  は  $(\mathbf{Z}/p\mathbf{Z})^\times$  の奇指標全体を動く. この (0.3) は Sands-Schwarz によって 導手が奇素数巾の虚アーベル体に拡張され ([S-Sch]), Dohmae によって 導手が奇数の虚アーベル体に拡張された ([D]). また最近になって, Hirabayashi により導手が偶数のもののうち, ある条件をみたす虚アーベル体についても (0.3) の拡張された結果が示された ([Hi]).

この小文では、一般の虚アーベル体  $K$  (すなわち導手は任意) について、その導手と互いに素な 2 以上の自然数  $\ell$  にたいし、generalized Demjanenko matrix  $\Delta(K, \ell)$  を構成し、(0.3) の一般化である次の関係式を証明する (§2 参照)。

### 主定理

$$\det \Delta(K, \ell) = \frac{(-2)^{[K:\mathbf{Q}]/2}}{Q_K w_K} h^-(K) \prod_{\chi \in X^-} (\ell \chi(\ell) - 1) \prod_{p|n} (1 - \chi(p)),$$

ここで  $Q_K$  はいわゆる  $K$  の unit index,  $w_K$  は  $K$  に属する 1 の巾根の総数,  $X^-$  は  $\text{Gal}(K/\mathbf{Q})$  の奇指標全体とする。

$\ell = 2$  のとき,  $\Delta(K, 2)$  は本質的に Demjanenko matrix と一致することがわかる (§2 参照)。また  $\ell = n + 1$  のとき,  $\Delta(K, n + 1)$  は Girstmair の定義した  $K$  の Maillet determinant をあらわす行列と一致していることがわかる (§3 参照)。このとき, 上記の主定理の結果は [G] の Theorem 1 の結果と完全に一致している。従ってこの  $\Delta(K, \ell)$  は Maillet determinant と Demjanenko matrix の両方の一般化とみなすことができる。

応用として §4 では導手が 2 巾である虚アーベル体  $K$  について,  $h^-(K)$  の upper bound を与える。この評価は, [S-Sch] の Theorem 4 の類似と見ることが出来る。§5 では  $\Delta(K, \ell)$  の行列の直和分解を考察する。すなわち  $c|([K:\mathbf{Q}]/2)$  となる  $c$  について,  $\Delta(K, \ell)$  が  $c$  個の小行列の直和からなる行列と相似であることを証明する。とくに  $c = [K:\mathbf{Q}]/2$  のときが  $\Delta(K, \ell)$  の対角化であり, 各対角成分は本質的に一般ベルヌイ数となる。§6 では  $K$  の cyclotomic  $\mathbf{Z}_p$ -extension  $K = K_0 \subset K_1 \subset K_2 \subset \cdots \subset K_m \subset \cdots$  に付随するような generalized Demjanenko matrix  $\Delta(K, \ell, m)$  ( $m \geq 0$ ) を構成する。ただし  $\Delta(K, \ell, m) \in M([K:\mathbf{Q}]/2, \mathbf{Q}(\zeta_{p^m}))$  であり,  $m = 0$  のとき  $\Delta(K, \ell, 0) = \Delta(K, \ell)$  である。

なお, この小文の内容について, §2, §3, §4 については [T2] に, §5 については [T3] に, §6 については [T4] にまとめられている。

## § 1. Stickelberger element の類似物

$G = \text{Gal}(\mathbf{Q}(\zeta_n)/\mathbf{Q}) = \{\sigma_a \mid \sigma_a : \zeta_n \rightarrow \zeta_n^a, (a, n) = 1\}$ ,  $H = \text{Gal}(\mathbf{Q}(\zeta_n)/K)$ ,  $G_K = \text{Gal}(K/\mathbf{Q}) \simeq G/H$  とする。ここで  $\sigma_a|_K$  も簡単のため  $\sigma_a$  とかく。  $J = \sigma_{-1}$

を複素共役とする. また  $\mathbf{Q}$  の代数閉包を  $\overline{\mathbf{Q}}$  とかき, 群環  $V = \overline{\mathbf{Q}}[G_K]$  を考える.  $V^- = \{x \in V \mid Jx = -x\}$  とおくと,  $V^- = (1 - J)V$  である.

$\mathbf{Q} \subset K \subset \mathbf{Q}(\zeta_n)$  なので,  $T_K \subset \{a \in \mathbf{Z} \mid 1 \leq a < n, (a, n) = 1\}$  で  $H = \text{Gal}(\mathbf{Q}(\zeta_n)/K) = \{\sigma_a \mid a \in T_K\}$  となる  $T_K$  がとれる. さらに  $J = \sigma_{-1} \notin H$  なので,  $S_K \subset A_n = \{c \in \mathbf{Z} \mid 1 \leq c < n/2\}$  で  $\{\sigma_c \mid c \in S_K\} \cup \{\sigma_{-c} \mid c \in S_K\}$  が  $G/H \simeq G_K$  の完全代表系となる  $S_K$  がとれる.

以下 [W] § 6.3, § 6.4 の記号を使う.  $X$  を  $G_K$  の指標群とし,  $X^-$  を  $G_K$  の奇指標全体,  $X^+$  を偶指標全体とする.  $\chi \in X$  にたいし

$$\varepsilon_\chi = \frac{1}{[K:\mathbf{Q}]} \sum_{a \in S_K} \chi(a) (\sigma_a^{-1} + \chi(-1)\sigma_{-a}^{-1})$$

とすると,  $\{\varepsilon_\chi \mid \chi \in X\}$  は  $V = \overline{\mathbf{Q}}[G_K]$  の orthogonal idempotents である. 注として  $\varepsilon_\chi \sigma_a^{-1} = \overline{\chi}(a)\varepsilon_\chi$  である.  $\{\varepsilon_\chi \mid \chi \in X\}$  が  $V$  の  $\overline{\mathbf{Q}}$ -basis で,  $\{\varepsilon_\chi \mid \chi \in X^-\}$  が  $V^-$  の  $\overline{\mathbf{Q}}$ -basis であることは容易にわかる.

そこで  $\ell > 1$  で  $(\ell, n) = 1$  となる  $\ell \in \mathbf{Z}$  をとり, 次の記号を定義する.

$$A_n(b, \ell) = \sum_{\substack{\zeta^{\ell=1} \\ \zeta \neq 1}} \frac{\zeta^{n-b}}{1 - \zeta^n} \in \mathbf{Q}. \quad (1.1)$$

Remark. もし  $n$  が奇数ならば,  $\ell = 2$  としてよい. このとき  $A_n(b, 2) = (-1)^{b-1}/2$  となる.

DEFINITION 1.1.  $\rho = \rho(K, \ell) = \sum_{\substack{a=1 \\ (a,n)=1}}^n A_n(R(a), \ell)\sigma_a^{-1} \in \mathbf{Q}[G_K]$ .

Remark.  $A_n(R(n-a), \ell) = -A_n(R(a), \ell)$  なので,  $\rho \in V^-$  である. とくに  $\ell = n+1$  のとき,  $\rho(K, n+1)$  は ( $K$  の Stickelberger element - half norm) の  $n$  倍であることが確かめられる.

以下  $\chi \in X^-$  とする. 定義より,

$$\rho\varepsilon_\chi = \sum_{\substack{a=1 \\ (a,n)=1}}^n A_n(R(a), \ell) \overline{\chi}(a)\varepsilon_\chi. \quad (1.2)$$

次の補題が, [W] の Lemma 12.15 と [T] の Lemma 1 よりえられる.

$$\text{LEMMA 1.2. } \sum_{\substack{a=1 \\ (a,n)=1}}^n A_n(R(a), \ell) \chi(a) = (\ell \chi(\ell) - 1) B_{1,\chi} \prod_{p|n} (1 - \chi(p)).$$

この補題と (1.2) より, 次の命題をえる.

$$\text{PROPOSITION 1.3. } \rho \varepsilon_\chi = \varepsilon_\chi (\ell \bar{\chi}(\ell) - 1) B_{1,\bar{\chi}} \prod_{p|n} (1 - \bar{\chi}(p)).$$

## § 2. 主定理の証明

$S_K$  と  $T_K$  の定義から

$$G = \{\sigma_a \sigma_c \mid a \in T_K, c \in S_K\} \cup \{\sigma_a \sigma_{-c} \mid a \in T_K, c \in S_K\} \quad (2.1)$$

であるが,  $a \in T_K$  ならば  $\sigma_a|_K = 1$  なので  $\sigma_a \sigma_c = \sigma_c$  on  $K$  となる.  $\rho(K, \ell) \in V^-$  より次をえる.

$$\text{LEMMA 2.1. } \rho = \sum_{c \in S_K} \left( \sum_{a \in T_K} A_n(R(ac), \ell) \right) (\sigma_c^{-1} - \sigma_{-c}^{-1}).$$

$(c, n) = 1$  となる  $c \in \mathbf{Z}$  にたいし,  $\xi_c = \sigma_c^{-1} - \sigma_{-c}^{-1}$  とおくと,  $\{\xi_c \mid c \in S_K\}$  が  $V^-$  の  $\bar{\mathbf{Q}}$ -basis となる. ここで  $\xi_a \xi_b = 2\xi_{ab}$ ,  $\xi_{-a} = -\xi_a$  なので, Lemma 2.1 より

$$\rho \xi_d = 2 \sum_{c \in S_K} \left( \sum_{a \in T_K} A_n(R(ac), \ell) \right) \xi_{cd}. \quad (2.2)$$

$(a, n) = 1$  となる  $a \in \mathbf{Z}$  にたいし  $b \in T_K$  と  $c \in S_K$  を  $\sigma_a = \sigma_b \sigma_c$  または  $\sigma_a = \sigma_b \sigma_{-c}$  となるようにとれる. このとき  $g(a) = c$ ,

$$f(a) = \begin{cases} 1 & (\text{if } \sigma_a = \sigma_b \sigma_c) \\ -1 & (\text{if } \sigma_a = \sigma_b \sigma_{-c}) \end{cases} \quad (2.3)$$

とおく. 注として  $\sigma_a = \sigma_{f(a)g(a)}$  on  $K$  なので, 次の2つの補題が成り立つ.

LEMMA 2.2.  $c \in S_K$  ならば  $\{g(cd) \mid d \in S_K\} = S_K$ .

LEMMA 2.3.  $b, c, d \in S_K$  について  $g(cd) = b$  ならば  $c = g(bd')$  かつ  $\xi_{cd} = f(bd') \xi_b$ .

この2つの補題より、次の命題をえる。

PROPOSITION 2.4.  $d \in S_K$  について、

$$\rho\xi_d = 2 \sum_{b \in S_K} \left( \sum_{a \in T_K} A_n(R(abd'), \ell) \right) \xi_b.$$

DEFINITION 2.5.  $\Delta(K, \ell) = \left( 2 \sum_{a \in T_K} A_n(R(abc'), \ell) \right)_{b, c \in S_K}$ .

### 主定理の証明

$\{\varepsilon_\chi; \chi \in X^-\}$  と  $\{\xi_d; d \in S_K\}$  が  $V^-$  の  $\overline{\mathbf{Q}}$ -basis なので、 $L_\rho(v) = \rho v$  で定義される  $V^-$  の endmorphism  $L_\rho$  のこれらの basis に関する表現行列を考えると、Proposition 1.3, Proposition 2.4, Definition 2.5 と 解析的類数公式 ([W] Proposition 4.9 等) より、主定理が証明される。

Remark 1. この  $\Delta(K, \ell)$  は ordinary Demjanenko matrix のある種の一般化とみることが出来る。実際、 $|\det \Delta(K, 2)| = 2^{[K:\mathbf{Q}]/2-1} |\det D| = |\det \widetilde{D}|$  が成り立つ。ここで  $D$  は Sands-Schwarz の Demjanenko matrix,  $\widetilde{D}$  は [S-Sch] において考察されている modified Demjanenko matrix である。

Remark 2.  $\prod_{\chi \in X^-} (\ell \chi(\ell) - 1)$  と  $\prod_{p|n} (1 - \chi(p))$  の値は [G], [S-Sch], [D] 等できちんと計算されている。

## § 3. Girstmair's Determinant

この § では  $\ell = n + 1$  とする。Proposition 1.3 より

$$\begin{aligned} \varepsilon_\chi \rho(K, n+1) &= \varepsilon_\chi n B_{1, \bar{\chi}} \prod_{p|n} (1 - \bar{\chi}(p)) = \varepsilon_\chi \sum_{\substack{a=1 \\ (a, n)=1}}^n \bar{\chi}(a) a \\ &= \varepsilon_\chi \sum_{\substack{a=1 \\ (a, n)=1}}^n n B_1 \left( \frac{R(a)}{n} \right) \sigma_a^{-1} \end{aligned}$$

が  $\chi \in X^-$  について成り立つ。ただし  $B_1(x) = x - 1/2$  (ベルヌイ多項式) である。  
注として  $\sum_a B_1(R(a)/n)\sigma_a^{-1} \in V^-$  なので,  $\sum_{\chi \in X} \varepsilon_\chi = 1$  より,

$$\rho(K, n+1) = \sum_{\substack{a=1 \\ (a,n)=1}}^n n B_1\left(\frac{R(a)}{n}\right) \sigma_a^{-1} = n \sum_{c \in S_K} \sum_{a \in T_K} B_1\left(\frac{R(ac)}{n}\right) \xi_c$$

が成り立つ。Lemma 2.1 より

$$\sum_{a \in T_K} A_n(R(ac), n+1) = \sum_{a \in T_K} n B_1\left(\frac{R(ac)}{n}\right)$$

が  $c \in S_K$  について成り立つ。よって Definition 2.5 より, 次の補題をえる。

LEMMA 3.1. 
$$\Delta(K, n+1) = \left( 2n \sum_{a \in T_K} B_1\left(\frac{R(abc')}{n}\right) \right)_{b,c \in S_K}$$

主定理より, 次の命題をえる。これは [G] の Theorem 1 の結果と一致する。

PROPOSITION 3.2. 
$$\det \Delta(K, n+1) = \frac{(-2n)^{[K:Q]/2}}{Q_K \omega_K} h^-(K) \prod_{p|n} (1 - \chi(p)).$$

#### § 4. Upper Bound for $h^-(K)$

奇素数  $p$  について導手が  $p$  巾の虚アーベル体  $K$  にたいし, Sands-Schwarz は  $h^-(K)$  の upper bound をあたえた ([S-Sch] Theorem 4)。ここでは虚アーベル体  $K$  の導手を  $2^m$  と仮定し,  $\ell = 3$  として主定理を適用する。  $F(\ell, K) = \prod_{\chi \in X^-} (\ell \chi(\ell) - 1)$  とおくと次の命題をえる。

PROPOSITION 4.1. 
$$h^-(K) \leq \frac{\omega_K}{|F(3, K)|} \left( 2^{m-2} [\mathbf{Q}(\zeta_{2^m}) : K] \right)^{[K:Q]/4}.$$

COROLLARY 4.2. 
$$h^-(\mathbf{Q}(\zeta_{2^m})) \leq 2^m \left( \frac{2^{m-2}}{9} \right)^{2^{m-3}}.$$

### § 5. $\Delta(K, \ell)$ の直和因子

$Y$  を  $(X^+ : Y) = c$  となる  $X^+$  の部分群とする. そこで  $X/Y$  の代表系のうちで, 奇指標が代表元となるものの全体を  $\{\psi_1, \dots, \psi_c\}$  とする.

$$\lambda_s = \sum_{\chi \in Y} \varepsilon_{\psi_s \chi} \quad (s = 1, \dots, c)$$

にたいして  $V_s = \lambda_s V$  とおく.  $\psi_s$  は奇指標なので  $V_s \subset V^-$  である. そこで

$$\ker Y = \{\sigma_a \in G_K \mid \chi(a) = 1 \text{ for any } \chi \in Y\}$$

とおく.  $|\ker Y| = (X : Y) = 2c$  なので ([W] Chap.3 参照),  $(G_K : \ker Y) = d/c$  となる.  $J \in \ker Y$  より  $\Gamma \subset S_K$  で  $\{\sigma_y^{-1} \mid y \in \Gamma\}$  が  $G_K/\ker Y$  の完全代表系となるものがとれ, 次の補題が成り立つ.

LEMMA 5.1.  $\{\lambda_s \sigma_y^{-1} \mid y \in \Gamma\}$  は  $V_s$  の  $\overline{\mathbf{Q}}$ -basis となる. ( $s = 1, \dots, c$ ).

そこで  $L_\rho|_{V_s}$  の  $\{\lambda_s \sigma_y^{-1} \mid y \in \Gamma\}$  に関する表現行列を  $\Delta_s(K, \ell, Y)$  とする. 以下  $\Delta_s(K, \ell, Y)$  の成分を具体的にかこう.  $J \in \ker Y$  なので,  $\Omega \subset \{x \in \mathbf{Z} \mid 1 \leq x < n/2\}$  であって  $\ker Y = \{\sigma_x^{-1} \mid x \in \Omega\} \cup \{\sigma_{-x}^{-1} \mid x \in \Omega\}$  となるものがとれる. よって

$$\rho = 2 \sum_{y \in \Gamma} \sum_{x \in \Omega} \sum_{a \in T_K} A(R(axy), \ell) \xi_{xy}$$

となる. §2 と同様に,  $z \in \Omega$  ならば  $\{g(yz) \mid y \in \Omega\} = \Omega$  であること, また  $y, z, w \in \Omega$  が  $g(yz) = w$  ならば  $y = g(wz')$  かつ  $\xi_{yz} = f(wz') \xi_w$  であることが示せるので, 次の命題をえる.

PROPOSITION 5.2.  $z \in \Gamma$  にたいして

$$\rho(\lambda_s \sigma_z^{-1}) = 2 \sum_{y \in \Gamma} \sum_{x \in \Omega} \sum_{a \in T_K} A(R(axyz'), \ell) \psi_s(x) \lambda_s \sigma_y^{-1}$$

が成り立つ.

DEFINITION 5.3.  $1 \leq s \leq c$  となる  $s$  について

$$\Delta_s(K, \ell, Y) = \left( 2 \sum_{x \in \Omega} \sum_{a \in T_K} A(R(axyz'), \ell) \psi_s(x) \right)_{y, z \in \Gamma}$$

これらと Proposition 2.4 をあわせて次の命題をえる.

PROPOSITION 5.4.  $\Delta(K, \ell)$  は次の行列と相似である.

$$\begin{pmatrix} \Delta_1(K, \ell, Y) & & & 0 \\ & \Delta_2(K, \ell, Y) & & \\ & & \ddots & \\ 0 & & & \Delta_c(K, \ell, Y) \end{pmatrix}.$$

COROLLARY 5.5.  $1 \leq s \leq c$  となる  $s$  について

$$\det \Delta_s(K, \ell, Y) = \prod_{\chi \in Y} (\ell \psi_s \chi(\ell) - 1) B_{1, \psi_s \chi} \prod_{\substack{p: \text{prime} \\ p | \ell}} (1 - \psi_s \chi(p)).$$

ここで  $B_{1, \chi}$  は一般ベルヌイ数 ([W] Chap.4 参照).

## § 6. 円分 $\mathbf{Z}_p$ -拡大に付随する Demjanenko matrix

§2 で考察した  $\Delta(K, \ell)$  は  $([K : \mathbf{Q}]/2) \times ([K : \mathbf{Q}]/2)$ -行列なので,  $[K : \mathbf{Q}]$  が大きくなると, 行列自身が大きくなってしまふ. そこでとくに  $K$  の円分  $\mathbf{Z}_p$ -拡大

$$K = K_0 \subset K_1 \subset K_2 \subset \cdots \subset K_m \subset \cdots$$

を考察するときに, §2 で考察した  $\rho$  を修正することにより, その表現行列として  $\Delta(K, \ell, m) \in M([K : \mathbf{Q}]/2, \mathbf{Q}(\zeta_p^m))$  ( $m \geq 0$ ) が定義されて, 次の命題が成り立つ.

PROPOSITION 6.1.  $K$  の導手が  $d$  または  $dp$  (ただし  $(d, p) = 1$ ) であるとき,

$$\det \Delta(K, \ell, m) = \frac{(-2)^{[K_m : \mathbf{Q}]/2}}{Q_{K_m} w_{K_m}} h^-(K_m) \prod_{\chi \in X^-(K_m)} (\ell \chi(\ell) - 1) \prod_{q | dp} (1 - \chi(q)).$$

Remark. とくに  $\Delta(K, \ell, 0) = \Delta(K, \ell)$ . 従って  $\Delta(K, \ell, m)$  は  $\Delta(K, \ell)$  を  $\mathbf{Z}_p$ -拡大の方向へ, 大きさを変えずに持ち上げていったものとみなせる. (詳細は [T4] 参照)

## References

- [C-O] L.Carlitz and F.R.Olson, Maillet's determinant, Proc. Amer. Math. Soc., **6** (1955), 265-269.
- [D] K.Dohmae, Demjanenko's matrix for imaginary abelian fields of odd conductors, Proc. Japan Acad. **70**(A) (1994), 292-294.
- [F-Z] H.G.Folz and H.G.Zimmer, What is the rank of the Demjanenko matrix?, J. Symb. Comp., **4** (1987), 53-67.
- [Ha] F.Hazama, Demjanenko matrix, class number, and Hodge group, J. Number Theory, **34** (1990), 174-177.
- [Hi] M.Hirabayashi, Relative class number formulae of an imaginary cyclic field by means of Maillet determinant and Demjanenko matrix, preprint.
- [G] K.Girstmair, The relative class numbers of imaginary cyclotomic fields of degrees 4,6,8,and 10, Math. Comp., **61** (1993), 881-887.
- [S-Sch] J.W.Sands and W.Schwarz, A Demjanenko matrix for abelian fields of prime power conductor, J. Number Theory **52** (1995), 85-97.
- [T1] H.Tsumura, On p-adic interpolation of the generalized Euler numbers and its applications, Tokyo J. Math., **10** (1987), 281-293.
- [T2] H.Tsumura, On Demjanenko's matrix and Maillet's determinant for imaginary abelian number fields, J. Number Theory, to appear.
- [T3] H.Tsumura, On a direct sum decomposition of the Demjanenko matrix, preprint, in submitting.
- [T4] H.Tsumura, On the Demjanenko matrix associated to the cyclotomic  $\mathbf{Z}_p$ -extension, preprint.
- [W] L.C.Washington, Introduction to cyclotomic fields, Springer-Verlag, New-York (1982).